

# 仙台青年

SENDAI YMCA NEWS

6



## Camp & Adventure

「キャンプで感性を磨こう」

健康教育事業部 黒田敦

「リーダー、このお友だちと」にて365日  
キャンプができたらしいな。」

とある2泊3日のキャンプにて、最終日に子ども  
の口から急に出た言葉です。明日でキャンプが  
終わることを嘆く子どもたちにこれまで出会った  
ことはありましたが、「365日」と表現した子  
どもは初めてでした。ここにいる仲間とずっと一  
緒に過ごしたい素直な心の叫びではないかと感じ  
ました。

YMCAキャンプでは、参加する子どもたちや  
リーダー（指導者）の中で「初めまして」が多く  
存在します。「初めまして」ということは、私を  
知らない、そしてあなたを知らないという状況で  
キャンプがスタートするということです。

日常の中で、「○○が得意な△△さん」「△△  
さんって○○だよね」と、得てして他者から自分  
に対してレッテルを貼られがちです。そして、  
「○○な自分」「自分は△△じゃないといけな  
い」などと学校や習い事、家庭で、他者から貼ら  
れたラベルどおりの自分を無意識に演じて見せて  
いる子どももいます。

現代社会の子どもたちにとって課題といわれて  
いるものに、対人関係が希薄で異年齢や異世代と  
の交流がない、自然体験・生活体験等の直接体験  
が不足している、基本的な生活習慣が身について  
いない、コミュニケーション能力の低下などがあ  
げられます。そして、コロナ禍でさらにその課題  
が大きくなってきたように感じます。

(第2面に続く)





このような課題を見てみると、子どもたちを取り巻く環境において様々な人と交流する時間や機会、習い事以外の自然体験や生活体験の機会、大切な生活習慣を身につける機会が減っていると感じるのは、子どもたちが多忙で時間的な余裕がないことが1つの要因でしょう。

自分が幼少期のことを思い出すと、学校からの帰り道は寄り道が当たり前、帰ってきても友だちと約束をして、友だちの家に往ったり公園で遊んだりすることが当たり前でした。今では子どもたちの安全面を考慮して、大人が安全を守ったり、公園ではサッカーや野球で怪我をしないようにボールで遊ぶことが禁止になっています。子どもたちを取り巻く環境に目を向けても、安全を守ることで制限が厳しくなり、様々な遊びなどの経験をする機会が奪われているように感じます。

キャンプでは自分のことは自分で頑張ります。グループで協力することはみんなで話し合います。意見の食い違いもありますが、みんなが納得できる方法を見つけます。初めての体験やドキドキの体験はリーダーたちがサポートをします。子どもたちと一緒に活動するユースボランティアリーダーにとっては、どこまで子どもたちに介入するか、どこで手を差し伸べるか悩みます。そして自分が経験したことのないことを子どもたちと一緒に活動します。

上手くいったことばかりではなく、できなかったこと、失敗したこと、悔しかったことなども子どもたちにとっては重要な経験になります。勉強でも、習い事でもないからできるチャレンジがキャンプの中にはたくさんあります。普段の生活で見せている自分じゃなくていいんです。一人ひとりが日々の生活から離れ、キャンプ生活を通して感性が磨かれ、今まで見たことのない自分を発見すること、仲間と同じ空間を共有すること、自然の中で感じること・・・など、子どもたちには感受性の豊かな時期にキャンプを通して多様な経験をしてもらいたいと思っています。キャンプでは、普段の生活で見せる自分を演じる必要はありません。ありのままの自分を表現できる場所です。冒頭に書いたように、子どもたちはキャンプで感性を磨かれるのです。

キャンプは人の感性をブラッシュアップする力を持っています。ブラッシュアップされるからこそ、子どもたちのいろいろな表情や行動が生まれます。2022年度も子どもたちがYMCAのキャンプを通して、生きる力を育みながら、感性をブラッシュアップしていってくれることを楽しみにしています。



## 2021年度仙台YMCA大会を行います

< 予定 >  
 日時：2022年6月25日(土)  
 14:00-15:30  
 場所：203教室

【次第】

第一部 開会礼拝  
 第二部 会員総会  
 第三部 ウクライナ支援報告等



## 「心の支え」

眞壁はるかさん / ひかり組 眞壁こなつさん 母

YMCAとの出会いは、主人の職場の上司から勧められたことがきっかけでした。2013年に長男が8ヶ月で入園し、その後4歳年下の妹も入園して、現在まで約9年間お世話になっています。

親になったばかりの私たちにとって、仕事と子育ての両立は本当に難しく、日々全く余裕が持てませんでした。幼い我が子を早朝から延長まで保育園に預けることの申し訳なさや、理想と現実とのギャップに対する苛立ちを覚えることも少なくありませんでした。

長男が入園したばかりの頃、周りの子が落ち着いて食事をする横で、泣いて食べられる状態ではなかった我が子と帰宅した日。帰りの車の中で泣きなくなったこと。それまで仕事で沢山の子どもや保護者の方と関わり、声を掛けてきましたが、いざ自分がその立場になった時にこんな気持ちになるのかと気付かされた瞬間でした。

子育てと仕事で毎日が忙しく過ぎていく私たちにとって、お迎えの際に職員の方と何気ない会話をすることが唯一ほっとできる時間でもありました。“自分は保育士なのにこんなことで悩んで、どう思われているのだろう”と常に頭で考えてしまう自分がいましたが、職員の方々は「何でも話して下さいね」といつも安心できる言葉を掛けて下さいました。お陰で多くの悩みを相談することができました。

また、子どもたちは園生活を通して、家庭だけでは学ぶことができない多くの経験をさせて頂きました。それは普段子どもたちが話す園での様子からも十分伝わってきました。子どもたちに寄り添い、丁寧に関わってもらったこと、のびのびと育ててもらったこと、沢山の絵本を読んでもらったこと、おいしい食事で心と身体を強くしてもらったこと、“大好きだよ”と沢山言ってもらえたこと....

YMCAと出会えたことで、子どもたちも私たち夫婦も沢山成長させて頂きました。来春で卒園は名残惜しいですが、たっぷり愛情をもらった子どもたちは、これからも多くの山を乗り越えていけると思います。



## ボランティア

## 富沢児童館

僕がボランティア活動で一番印象に残っていることは、小学4年生の頃に参加したYMCAのお祭り(バザーみたいな)です。トミザワイレブンは、たこせん(たこ焼きせんべい)を作って売ったりしました。たこせんとは、簡単に説明すると、たこ焼きをエビせんべいではさんだものです。リーダーと、同じトミザワイレブンの仲間と、たこせんを作るのを手伝ったり、売ったり、試食用のたこせんを持って宣伝しに校内をまわったりして楽しかったです。たくさんの人に買ってもらえて「おいしい」と言ってもらえてうれしかったです。

もう一つは、冬キャンプです。毎年参加し、その年によっていろいろなイベントをしました。ソリに乗って斜面をすべったり、児童館の新サテライトの看板を作ったり、雪の中でアイス(シャーベット)を作ったりしました。僕はバナラ味を食べました。とてもおいしかったです。

他にも地球探検隊でイレブンが風の強い中テントを建てたり、飛ばされた物やテントを直していました。笹川清掃ではゴミ一つもないくらいきれいに、ゴミ拾いをして色々な経験ができて僕の強みになりました。

トミザワイレブンに入って良かったことは人に優しく接することができるようになったことと、気づきや自分がなりにできるようになったことです。

これからもトミザワイレブンのボランティア活動に積極的に参加して、リーダーの手伝いを頑張ったり、役に立てる人になりたいです。



富沢児童館

ジュニアボランティア  
「トミザワイレブン」  
富沢中1年

水沼 空駕 さん



## 「感謝から活動へ」

石巻広域ワイズメンズクラブ会長 日野 峻

石巻広域ワイズメンズクラブは、YMCAを支える国際的なボランティア組織に属している。国際事務局から認証され、6年前の5月28日に発足した。石巻地域は大震災で国内外から言葉で言い尽くせないほどのたくさんのご支援、お力をいただいた。今も尚、お力をお持ちをいただいている。感謝、恩返しのお気持ちである。

私たちのボランティア組織のメンバーは、地域に根差した公益的で社会的な活動目的という共通のボランティア意識を有しており、ボランティアとは「できることを、できる人が、できる時に自ら行う行為」と押さえた上で活動している。

すると、子どもたちは道のごみ拾いをした、探し物を手伝った、おじいさんおばあさんの肩もみをした、募金をした、雪かきをした、泣いている小さい子を笑わせた、家の門のところに安全確認用の鏡をふいた、...のように、身近なところでも誰かのために、何かのために自分でできることをした経験を話し出す。お互いに出し合い考えることで、人格尊重や感謝の念が生まれ、互いの個性を認め合い、他の手法を獲得していく。学校、家庭、地域は、共に生き、学ぶ集団組織であるが故にそういう教育的機能、役割を大事にしたい。

私たちの拠点は旧石巻栄光幼稚園にあり、石巻好文館高校に隣接している。近隣には小・中学校があり、比較的密集した住宅地にあるので、この地域の文化的活動の拠点にでもなれたらとの希望を持っている。また、国内外のワイズメンズクラブ、YMCA、諸団体との交流、情報交換、支援体制の構築・実践など行っている。復興における役割・活動が世界から注目されている「石巻広域」である。世界からの・他地域からの視点を意識し、感謝を活動の動機にかえ、「福幸」社会を目指して活動していく。

「星を望みて、地を歩まん」

石巻と神戸をつなぐ  
チャリティアイコンサート

◎ 石巻栄光教会礼拝堂

第29回目を迎えた  
YMCAストレッッチヨガ教室

◎ 石巻復興住宅団地集会所

## 維持会費

(6月1日～6月15日)

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

## ◆一般会員

維持会員A	維持会員B
松田 美彰 さん	小山 憲彦 さん
尾木 進一 さん	
尾木 恵美子 さん	維持会員C
平野 邦夫 さん	工藤 正剛 さん

一般会員・サポート会員を  
随時募集中です

ぜひ会員として、

仙台YMCAの活動をお支えください

お問い合わせ：本部事務局

TEL:022-222-7634

FAX:022-222-2952

## 仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

## 共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。  
喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをおし、共に成長できる生き方をすすめます。  
世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

## 地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。  
ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を拡げます。  
子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊か  
でたくましい人間に育つよう支援します。